

令和4年度 大田区地域ケア会議区レベル会議について

1 参集・ウェブ・書面の併用による会議開催にあたっての意見聴取について

令和5年2月1日（水）開催の「大田区地域ケア会議区レベル会議」について、新型コロナウイルス感染症再拡大防止の観点から、参集型会議、WEB会議および書面会議の併用にて開催することとした。

書面参加の委員には、会議資料と同時に意見書用紙を送付し、令和5年1月30日（月）を期限に意見書の提出を依頼した。

あわせて、参集・WEB参加の委員にも事前意見・質問票を任意で提出できることとし、いただいた意見・質問については、以下のとおり一覧としてまとめた。一覧は、委員及び庁内委員に会議の参考資料として電子メール等で送付、情報提供する。

2 各委員からの意見・質問

下記に、各委員からいただいた意見をまとめる。

資料 番号	ご意見・ご質問	回答
資料①	<p>他に、どのような社会参加の方法が考えられるか？</p> <p>→（1、2案）民間団体を巻き込む前に、介護施設系との連携を考えた内容</p> <p>（3案）地域資源で比較的機能している民間団体で、連携・受入れが「可能そうな団体」との連携を考えた内容</p> <p>（4案）既存の仕組みに「加えて」マッチングアプリとの連携についての内容</p> <p>（1案）大田区と大田区社会福祉協議会（以下、社協）と連携を行い、現在、ボランティア募集している介護系施設（通所介護等）に受入れ適応可能か伺う。 受入れ可能な施設に、ボランティアとして受け入れてもらう。</p>	<p>多様、かつ、具体的なお提案をいただき、ありがとうございます。本会議並びに次年度に引き続く地域ケア会議で、いただいた案について、皆様のご意見等も賜りながら、検討していきたいと考えます。</p>

(2案)

大田区、大田区社会福祉協議会（以下、社協）、介護サービス団体連絡会（以下、団体連絡会）と連携を行う。主管は大田区、受入れ・調整窓口は、社協ボランティアセンター。

<手順例>

- ・先方に、ボランティアの受入れを求める
- ・募集可能な介護系施設（施設系、通所介護、訪問介護等々）
- ・受入れボランティアの募集の告知用紙を作成（大田区、社協、団体連絡会連名）
- ・広報開始
- ・連携により、趣旨にそった 地域づくりを推進
- ・プレスリリース（SNS、ホームページ、メディア）
- ・ボランティアコミュニケーション欄に専用欄を創設して募集する
- ・対象事業者へ告知（F a x ・ケア倶楽部掲載）
- ・区内掲示版掲載

(3案)

大田区、大田区社会福祉協議会（以下、社協）、みま〜もと連携を行う。主管は大田区、受入れ・調整窓口は、社協ボランティアセンター。

<手順例>

- ・ボランティアコミュニケーションに専用欄を創設
- ・先方に、ボランティアの受入れを求める
- ・ボランティアコミュニケーション欄に募集掲載

- ・みま〜も各種活動に、ボランティアとしてきて頂く
- ・広報開始
- ・連携により、趣旨にそった 地域づくりを推進
- ・プレスリリース（SNS、ホームページ、メディア）
- ・区内掲示版掲載

（4案）

区内では、認知症高齢者の方への推進と同時に、住民同士ともに支え合うことを活性化する必要があると思う。そこで、ボランティアしたい方とボランティアを希望する方とのマッチングの仕組みを、現在の社協のボランティアセンターに加えて、新たに創設するのが良いと思う。既存の仕組みに「加えて」がポイント。ボランティアしたい、悩んでいる方への、アクセサビリティを高める事が必要だと思う。

大田区、社協、株式会社プラスロボの業務連携が良いと思う。株式会社プラスロボが開発している「スケッター」を活用 (<https://www.sketter.jp/>)。令和4年から、他市区町村業務提携実績をしていきっていて、下地はできていると思う。特に、若年層の方の使用頻度が高いのが特徴の様子で、連携の検討の余地はあると思う。